

都市再生整備計画

ひがしだ だい かいへんこう
東田地区(第4回変更)

ふくおか きたきゅうしゅうし
福岡県 北九州市

令和7年6月

事業名	確認
都市構造再編集中支援事業	■
都市再生整備計画事業(社会資本整備総合交付金)	□
都市再生整備計画事業(防災・安全交付金)	□
まちなかウォークアブル推進事業	□

都市再生整備計画の目標及び計画期間

様式(1)-②

都道府県名	福岡県	市町村名	きたきゅうしゅう 北九州市	地区名	ひがしだ 東田地区	面積	137 ha
計画期間	令和 3 年度 ~ 令和 7 年度	交付期間	令和 3 年度 ~ 令和 7 年度				

<p>目標</p> <p>大目標 集客拠点に相応しく、来訪者に魅力的な都市環境の形成</p> <p>目標1 観光施設、教育・文化施設、大規模商業施設などが集積する集客拠点の中核に相応しいゲート空間の形成</p> <p>目標2 施設を歩いて巡りたくなる公共空間の形成</p>
<p>目標設定の根拠</p> <p>都市全体の再編方針(都市機能の拡散防止のための公的不動産の活用の方針を含む、当該都市全体の都市構造の再編を図るための方針)</p> <p>文化・観光施設等が集積する当地区では、現在(平成30年度から5年間で)「東田ミュージアムパーク創造事業」による文化観光を推進しており、2022年春には、新たに新科学館や大型商業施設がオープン予定で、さらなる地区来訪者の増大が見込まれる。これを機に官民が連携し公共空間の魅力向上を図るとともに、居心地よく歩きたくなる環境を整備し、観光交流拠点の中核に相応しい魅力ある都市環境の形成を推進する。</p>
<p>まちづくりの経緯及び現況</p> <p>【まちづくりの経緯】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・明治34年の官営八幡製鉄所(現日本製鉄株)の操業後、関連工場などの立地を伴って我が国の近代産業を支えた北九州地域の「工業都市」の中核となる。 ・産業構造転換の影響にて製鉄所の遊休地にアミューズメント施設スペースワールドが平成2年に開業。 ・科学・歴史・産業・自然・環境に関する博物館群を整備する「SHINE構想」が平成5年に策定され、博物館群が整備される。 ・東田地区区画整理事業によって当該地区の土地利用転換がなされ、博物館群の整備や新駅が整備される。 ・スマートコミュニティ創造事業、水素社会実験など、先端技術のまちづくりを推進している。 <p>【現況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成28年9月策定の「北九州市立地適正化計画」にて都市機能誘導区域に指定される。 ・平成27年7月に現存する官営八幡製鉄所関連施設が世界遺産「明治日本の産業革命遺産製鉄・製鋼、造船、石炭産業」に登録される。 ・平成30年3月に改定の「都市計画マスタープラン」にて「地域拠点」「次世代産業拠点」「観光交流拠点」に位置づけられる。 ・文化庁「地域の美術館・歴史博物館を中核としたクラスター形成事業」の採択を受け、いのちのたび博物館を中核として東田地区とその周辺地域の施設が連携し、地域の活性化やインバウンドの取り込みにつなげる事業を実施。 ・旧スペースワールド跡地(平成29年12月閉鎖)において、民間事業者による大型商業施設が令和4年春に開業。また、同施設エリア内に新科学館(市)が新設。
<p>課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市内外から人を呼び込む「集客拠点」のポテンシャルを高めるため、集積する各施設の更なる魅力向上とともに、地区全体の魅力向上を図る必要がある。 ・JRスペースワールド駅高架下及び駅前広場は、地区のゲート空間としての魅力向上を図る必要がある。 ・文化施設群と大型商業施設とは東田大通りで分断され施設間連携が弱いことから、各施設をつなぐ居心地よく歩きたくなる公共空間の形成が必要である。
<p>将来ビジョン(中長期)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「北九州市基本構想・基本計画」(令和6年3月策定) ・歴史ある製鉄関連などの企業や先端産業が集積する東田地区と商店街などの市街地が連系して新たなビジネスの創出に挑戦し、ともに発展するまちづくりを推進する。 ・都市計画マスタープラン(平成15年11月策定・平成30年3月改訂) <p>【地域拠点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・世界の環境首都に相応しい先進モデル地区としてのまちづくりを進める。 <p>【観光交流拠点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新旧の産業が融合し、博物館等観光資源を生かした、多くの人が楽しみ、学ぶことができるまちづくりを進める。 ・観光資源や教育・文化施設などの質を高め、ビジターズインダストリー(集客産業)の中核として多くの人が訪れるまちをつくる。

都市構造再編集集中支援事業の計画

都市機能配置の考え方

- ・本市は、「都市計画マスタープラン」において、相対的に人口や産業の密度や買い物の利便性が高く、都市基盤や公共施設などが充実する公共交通の利便性の高い区域を「街なか」(＝居住誘導区域)とし、そのうち本市の中核として高次の都市機能の集積・維持・向上を図る地域を「地域拠点」と位置づけている。
- ・「立地適正化計画」では、本市の人口が減少基調にあることから、既に都市機能や人口が集積している拠点やその周辺の交通利便性の高い既成市街地においてその集積の維持向上を進め、集約型の都市構造の形成を図ることとし、都市計画マスタープランに定める地域拠点を都市機能誘導区域に設定している。
- ・都市機能誘導区域では、高次の都市機能を誘導し、商業施設等不特定多数の人が利用する大規模集客施設の立地誘導を図る。

都市の再生のために必要となるその他の交付対象事業等

目標を定量化する指標

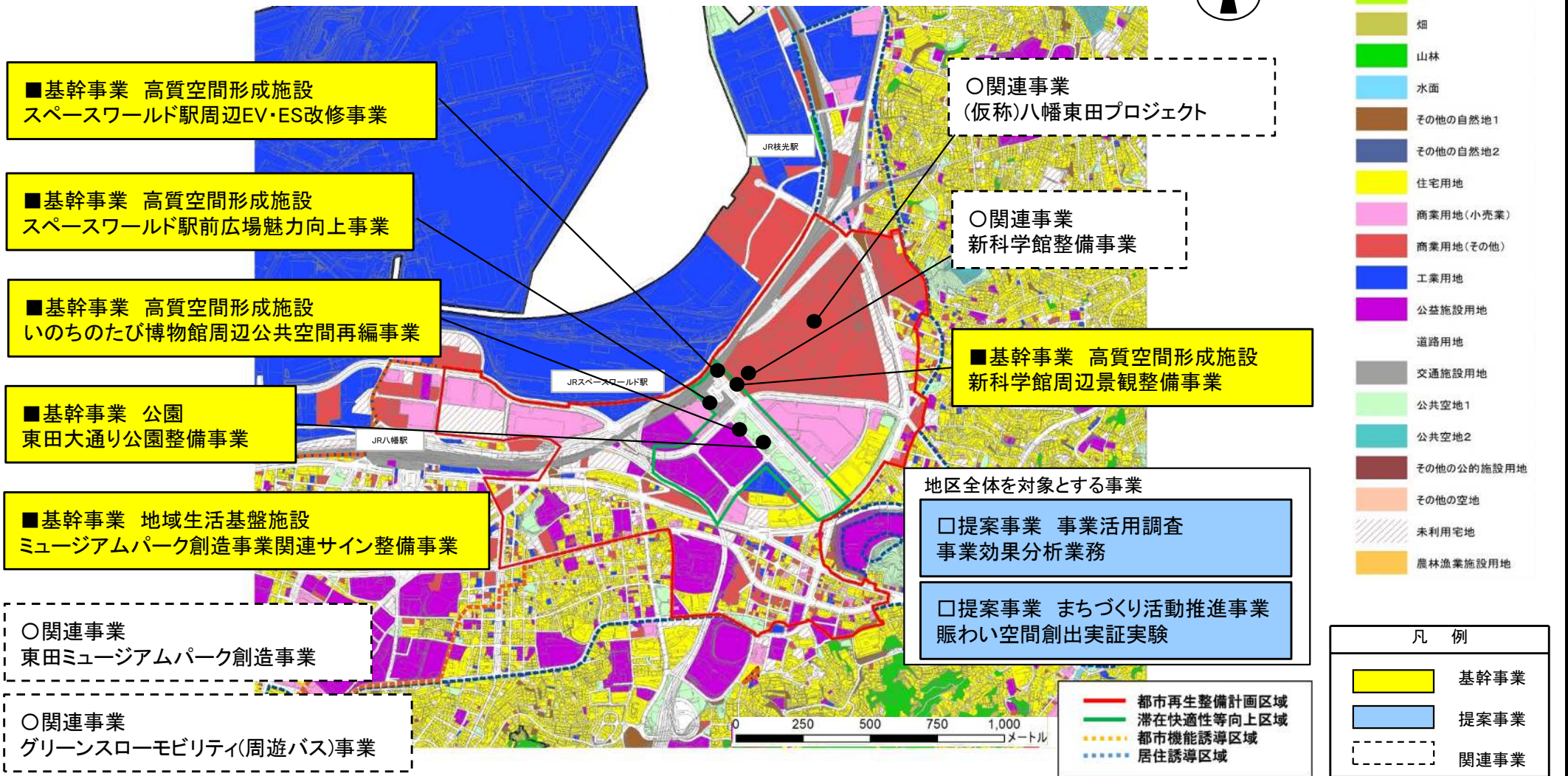
指 標	単 位	定 義	目標と指標及び目標値の関連性	従前値	基準年度	目標値	目標年度
東田地区の観光客数	人／年	東田地区における観光客数	【目標1.2】交流人口増加、賑わい創出、拠点の魅力向上等を把握	708,000	R1年度	2,000,000	R7年度
東田地区来訪者の平均滞在時間	h／人	東田地区の来訪者の平均滞在時間	【目標1.2】交流人口増加、賑わい創出、拠点の魅力向上等を把握	1.2	R1年度	1.6	R7年度
歩行者通行量	人／日	東田地区の主要地点における歩行者通行量	【目標1.2】交流人口増加、賑わい創出、拠点の魅力向上等を把握	11,356	R2年度	13,000	R7年度

計画区域の整備方針	方針に合致する主要な事業
<p>【魅力あるゲート空間の形成】</p> <ul style="list-style-type: none"> 文化施設等を訪れるファミリーなど来訪者をワクワクさせる演出があるゲート空間の創出 新科学館の科学実験など文化施設群のアクティビティも実施可能な、来訪者が憩い楽しむことができるオープンスペースを確保 駅前ゲート空間とまちの繋がりを強化 	<ul style="list-style-type: none"> ■【基幹事業/高質空間形成施設】スペースワールド駅前広場魅力向上事業 ■【基幹事業/高質空間形成施設】新科学館周辺景観整備事業 ■【基幹事業/高質空間形成施設】いのちのたび博物館周辺公共空間再編事業 ■【基幹事業/高質空間形成施設】スペースワールド駅周辺EV・ES改修事業 □【提案事業】事業効果分析業務 ○【関連事業】(仮称)八幡東田プロジェクト ○【関連事業】新科学館整備事業 ○【関連事業】東田ミュージアムパーク創造事業
<p>【居心地がよく歩きたくなる公共空間づくり】</p> <ul style="list-style-type: none"> 東田大通り公園の魅力向上(潤いのある都市緑地の創出と、歩いて巡りたくなる回遊核となる文化ゾーンと商業ゾーンを繋ぐ公共空間の創出) エリア全体の回遊性向上(来訪者に分かりやすく、歩いて巡りたくなるサイン(情報発信ツール)を整備) 	<ul style="list-style-type: none"> ■【基幹事業/公園】東田大通り公園整備事業 ■【基幹事業/地域生活基盤施設】ミュージアムパーク創造事業関連サイン整備事業 □【提案事業】賑わい空間創出実証実験 ○【関連事業】グリーンスローモビリティ事業
<p>その他</p>	
<p>【官民連携事業】</p> <p>東田ミュージアムパーク創造事業</p> <ul style="list-style-type: none"> 官民の関係者からなる「東田ミュージアムパーク実行委員会」を組織し、自然史・歴史博物館を中核に、地区内の文化施設等を連携させ、新たな魅力づくりやPRなどを予定している。 <p>【北九州市立地適正化計画】</p> <ul style="list-style-type: none"> 北九州市立地適正化計画において、東田地区は都市機能誘導区域に設定され、新旧の産業が融合し、博物館等観光資源を生かした多くの人が楽しみ、学ぶことができるまちづくりを目指している。 	

東田地区(福岡県北九州市) 整備方針概要図(都市構造再編集中支援事業)

目標	大目標 集客拠点に相応しく、来訪者に魅力的な都市環境の形成	代表的な指標	東田の観光客数 (人/年)	708,000	(R1年度)	→	2,000,000	(R7年度)
	目標1 観光施設、教育・文化施設、大規模商業施設などが集積する集客拠点の中核に相応しいゲート空間の形成		東田地区来訪者の平均滞在時間 (h/人)	1.2	(R1年度)	→	1.6	(R7年度)
	目標2 施設を歩いて巡りたくなる公共空間の形成		歩行者通行量 (人/日)	11,356	(R2年度)	→	13,000	(R7年度)

【地区名】東田地区 【区域面積】137ha(16ha)



- 土地利用用途
- 田
 - 畑
 - 山林
 - 水面
 - その他の自然地1
 - その他の自然地2
 - 住宅用地
 - 商業用地(小売業)
 - 商業用地(その他)
 - 工業用地
 - 公益施設用地
 - 道路用地
 - 交通施設用地
 - 公共空地1
 - 公共空地2
 - その他の公的施設用地
 - その他の空地
 - 未利用宅地
 - 農林漁業施設用地

- 凡 例
- 基幹事業
 - 提案事業
 - 関連事業

- 都市再生整備計画区域
- 滞在快適性等向上区域
- 都市機能誘導区域
- 居住誘導区域

